

UCS Managerでのバックアップ操作のトラブルシューティング

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[一般的なシナリオに対する解決策](#)

[\[FSM:FAILED\]: 内部システムバックアップ](#)

[エンドポイントがタイムアウトしました: IP、パスワード、スペース、またはアクセス関連の問題を確認してください](#)

[パスワード暗号化キーが設定されていません](#)

[関連情報](#)

はじめに

このドキュメントでは、UCSシステムの一般的なバックアップ障害シナリオを解決する方法について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントでは、UCS ManagerとCisco Intersightについて説明します。このドキュメントでは、特定のFabric Interconnectモデルに関係なく、UCSを対象としています。

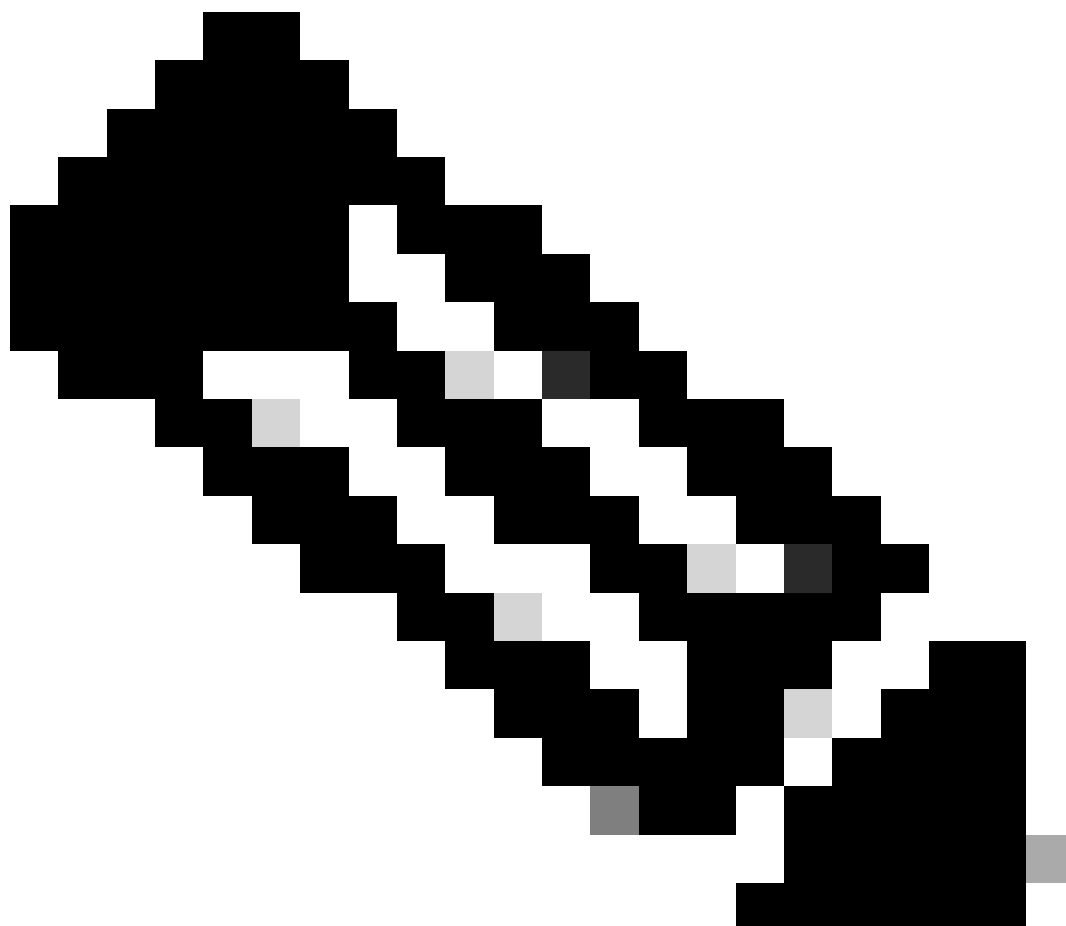
このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

背景説明

UCSドメインに対してバックアップオペレーションを実行すると、致命的な障害の後でUCS環境を回復できるように、システム設定の全部または一部のスナップショットを作成できます。

UCSシステム設定のタイムリーなリカバリに必要と考えられる設定に応じて、複数のバックアップオプションを使用できます。

Full State : システム全体のスナップショットを含むバイナリファイル。このバックアップから生成されたファイルを使用して、ディザスタリカバリ中にシステムを復元できます。このファイルでは、元のFabric Interconnect上で設定の復元や再構築を行ったり、別のFabric Interconnect上で設定の再作成を行うことができます。このファイルはインポートに使用できません。



注 : 完全な状態のバックアップファイルは、バックアップファイルのエクスポート元のシステムと同じバージョンを実行しているシステムの復元にのみ使用できます。また、バックアップの元となったバンドルがCisco UCS Managerに残っており、削除できないことも重要です。

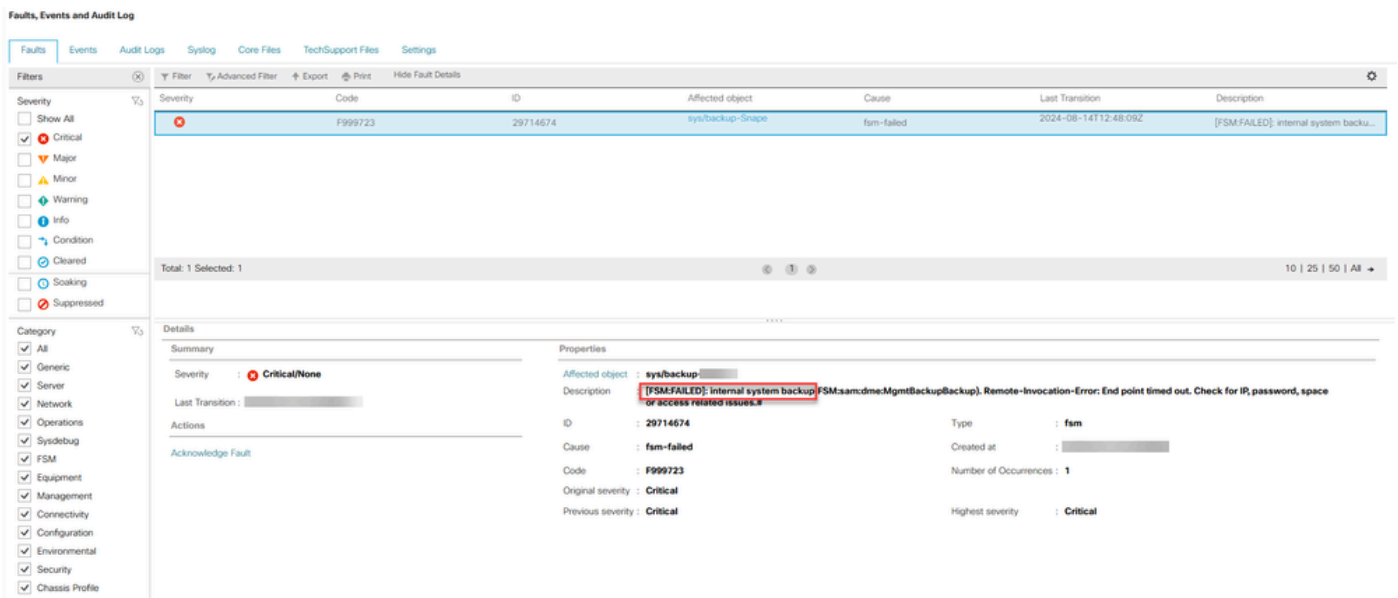
すべての構成 – すべてのシステムおよび論理構成設定を含むXMLファイル。このバックアップから生成されたファイルを使用して、これらの設定を元のFabric Interconnectまたは別のFabric Interconnectにインポートできます。このファイルはシステムの復元には使用できません。このファイルには、ローカル認証されたユーザのパスワードは含まれません。

システム構成：ユーザ名、ロール、ロケールなどのシステム構成設定をすべて含むXMLファイル。このバックアップから生成されたファイルを使用して、これらの設定を元のFabric Interconnectまたは別のFabric Interconnectにインポートできます。このファイルはシステムの復元には使用できません。

論理設定：サービスプロファイル、VLAN、VSAN、プール、ポリシーなどのすべての論理設定を含むXMLファイル。このバックアップから生成されたファイルを使用して、これらの設定を元のFabric Interconnectまたは別のFabric Interconnectにインポートできます。このファイルはシステムの復元には使用できません。

一般的なシナリオに対する解決策

[FSM:FAILED]：内部システムバックアップ



この障害は、プライマリとセカンダリのFabric Interconnect間で通信エラーが発生した場合に発生する可能性があります。

このエラーは最も一般的な原因で発生する可能性がありますが、次の原因に限定されるものではないため、正確な原因はさまざまです。

原因	解決方法
動作不能なファブリックインターコネクト	このエラーの原因が、予定されている電源またはメンテナンス関連のイベントでない場合は、 シスコサポートサービス にご連絡ください。

失敗したファームウェアアップグレード操作	ファームウェアアップグレードの処理が解決されたら、次の 手順 を実行して障害をクリアできます
SSHキーの不一致	最近UCSM 4.0または4.1にアップグレードした結果、このエラーが表示された場合は、次の 手順 を参照してください。

エンドポイントがタイムアウトしました： IP、パスワード、スペース、またはアクセス関連の問題を確認してください

Properties

Affected object	: sys/backup-[REDACTED]		
Description	: [FSM:STAGE:REMOTE-ERROR]: Result: end-point-unavailable Code: unspecified Message: End point timed out. Check for IP, password, space or access related issues.#{sam:dme:MgmtBackupBackup:upload}		
ID	: 33403238	Type	: fsm
Cause	: upload-failed	Created at	: [REDACTED]
Code	: F78123	Number of Occurrences	: 4
Original severity	: Warning		
Previous severity	: Cleared	Highest severity	: Warning

Details

Summary		Properties	
Severity	:  Minor/None	Affected object	: sys/backup-[REDACTED]
Last Transition	: [REDACTED]	Description	: Local Internal backup failed while upgrade. Please re-trigger a manual backup.
Actions		ID	: 33403296
Acknowledge Fault		Type	: management
		Cause	: local-internal-backup-failed
		Created at	: [REDACTED]
		Code	: F1672
		Number of Occurrences	: 4
		Original severity	: Minor
		Previous severity	: Cleared
		Highest severity	: Minor

このエラーは、UCSドメインが正常に接続できず、設定された宛先サーバにバックアップファイルを転送できなかったことを示します。

リモートファイル転送プロトコルは、手動または自動でUCSバックアップファイルを転送します。

Create Backup Operation

Admin State : ☐ Enabled ☒ Disabled

Type : ☒ Full State ☐ All Configuration ☐ System Configuration ☐ Logical Configuration

Location of the Backup File:

☒ Remote File System ☐ Local File System

Protocol : ☒ FTP ☐ TFTP ☐ SCP ☐ SFTP

Hostname :

Remote File :

User :

Password :

バックアップファイルの転送時にネットワーク通信の問題が発生した場合、エンドポイント（リモートサーバ）がタイムアウトしたか、到達不能であったことを示すエラーが表示されます。

UCSドメインとリモートファイルサーバの間に永続的なネットワーク通信の問題があるかどうかを確認するための最初の手順として、バックアップオペレーションを手動で作成します。成功した場合、バックアップが生成されてリモート転送される特定のウィンドウ中に、UCSドメインとリモートファイルサーバの間に断続的なネットワーク通信の問題が発生している可能性があります。



All



▼ All

▼ Faults, Events and Audit Log

Faults

Events

Audit Logs

Syslog

Core Files

TechSupport Files

Settings

▼ User Management

▶ Authentication

▶ LDAP

▶ RADIUS

▶ TACACS+

▼ User Services



All

General

Policy Backup & Export

Actions

Management Interfaces

Backup Configuration

Import Configuration

Create and Download Tech Support

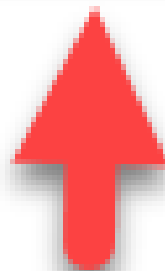


Backup Configuration

General

Actions

Create Backup Operation



Create Backup Operation



Admin State : ☒ Enabled ☐ Disabled

Type : ☐ Full State ☒ All Configuration ☐ System Configuration ☐ Logical Configuration

Preserve Identities : ☒

If preserve identities is selected, vHBAs WWPNs, vNICs MACs, WWNNs and UUIDs that are derived from pools, IDs for Chassis, FEX, Rack Servers, and User Labels for Chassis, FEX, Rack Servers, IOMs, Blades are preserved during a backup.
If not selected, the identities will be reassigned and user labels will be lost after a restore

Location of the Backup File:

☒ Remote File System ☐ Local File System

Protocol : ☒ FTP ☐ TFTP ☐ SCP ☐ SFTP

Hostname :

Remote File :

User :

Password :

OK

Cancel

Admin StateにEnabledを選択し、Type、Protocol、Hostname、Remote File name、Username/Passwordなどの適用可能なすべてのオプション（該当する場合）を選択します。

完了したら、Okをクリックします。

FSM Details

FSM Status	: Success
Description	:
Current FSM Name	: Backup
Completed at	: 
Progress Status	:  100%
Remote Invocation Result	: Not Applicable
Remote Invocation Error Code	: None
Remote Invocation Description	:

Success状態が表示されない場合は、UCSドメインとリモートファイルサーバの間に通信エラーがあることを示しています。

UCS管理ネットワークとリモートファイルサーバ(RFS)の場所の間にはオープン通信が必要です

。使用されるプロトコルでは、送信元と宛先間でトラフィックが許可されている必要があります。

SSHでUCSクラスタの仮想IPアドレスに接続します。ローカル管理シェルに接続し、コマンド `show open-network-ports` を実行して検証します。

```
# connect local-mgmt
Cisco Nexus Operating System (NX-OS) Software
TAC support: http://www.cisco.com/tac
Copyright (c) 2009, Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
The copyrights to certain works contained in this software are
owned by other third parties and used and distributed under
license. Certain components of this software are licensed under
the GNU General Public License (GPL) version 2.0 or the GNU
Lesser General Public License (LGPL) Version 2.1. A copy of each
such license is available at
http://www.opensource.org/licenses/gpl-2.0.php and
http://www.opensource.org/licenses/lgpl-2.1.php

(local-mgmt) #
(local-mgmt) # show open-network-ports
```

Name	Description	Port	Protocol
http	HTTP Service	80	tcp
https	Secure HTTP Service	443	tcp
snmp	SNMP Service	161	tcp
snmp	SNMP Service	161	udp
ssh	Secure Shell Server	22	tcp
telnet	Telnet Server	23	tcp
xmlPolicy	XML client connection policy	843	tcp

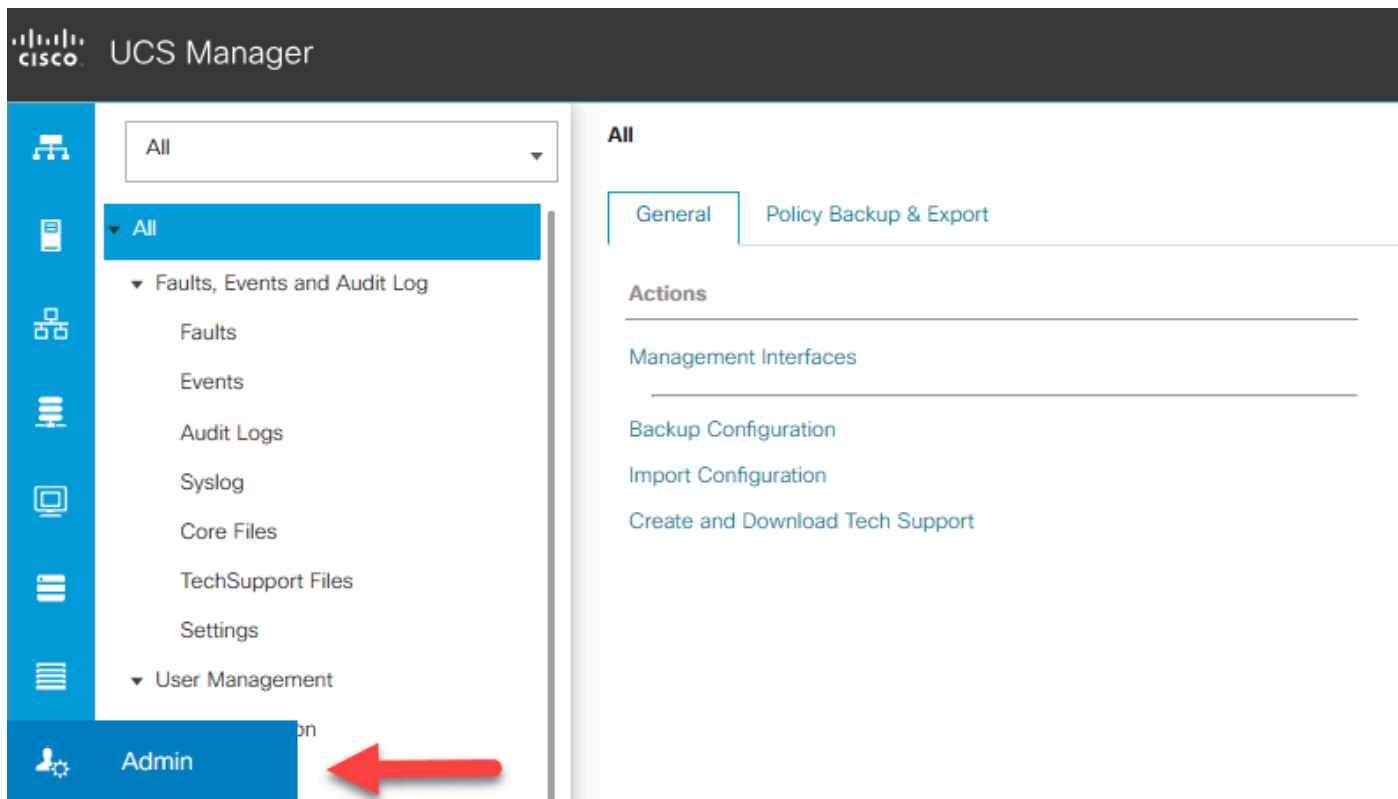
パスワード暗号化キーが設定されていません

リリース4.2(3d)以降、Cisco UCS Managerでは、バックアップコンフィギュレーションファイルのセキュリティを強化するために、パスワード暗号化キー(PSK)が導入されています。デフォルトでは、リリース4.2(3d)へのアップグレード後はパスワード暗号化キーは設定されません。[パスワード暗号化キー](#)の設定方法の詳細については、

次の手順では、パスワード暗号化キーを設定して障害をクリアする方法の概要を説明します。これらのGUIオプションが表示されない場合は、別のブラウザを試すか、ブラウザのキャッシュ/cookieをクリアしてください。

手順：

ステップ1：ナビゲーションペインでAdminをクリックします。



ステップ2: All > User Management > User Services > Locally Authenticated Usersの順に展開します。



All

▼ All

▼ Faults, Events and Audit Log

Faults

Events

Audit Logs

Syslog

Core Files

TechSupport Files

Settings

▼ User Management

▶ Authentication

▶ LDAP

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。